

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 4 月 17 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350784

研究課題名(和文) 近世後期における東北地方の庶民男女による旅の歩行距離に関する研究

研究課題名(英文) A study on the distance that common men and women traveled on foot in the Tohoku region during Japan's late modern period

研究代表者

谷釜 尋徳 (TANIGAMA, Hironori)

東洋大学・法学部・准教授

研究者番号：40527933

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近世後期における東北地方からの伊勢参宮の旅に着目し、当該地域の庶民男女が旅の道中で歩いた距離の傾向を明らかにしようとするものであった。基本史料として用いたのは、庶民が伊勢参宮の旅の道中で認めた記録(旅日記)である。

検討の結果、東北地方の庶民男女が歩いた伊勢参宮ルートが「近畿周回型」「四国延長型」「富士登山セット型」の3つに類型化できることがわかった。また、彼らの1日あたりの歩行距離の平均値は全体(男女)では約34.1kmで、これを男女別にみると庶民男性が約34.9km、庶民女性が約28.6kmであることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study sought to ascertain the distance that common men and women tended to travel on foot in the Tohoku region during Japan's late modern period, with a focus on pilgrimages from the region to the Ise shrines. The basic historical materials used were records (travel diaries) made by common people in the Tohoku region during their pilgrimages to the Ise shrines.

An analysis of those records revealed that common men and women in the Tohoku region took 1 of 3 routes to the Ise shrines: "a route with a loop around the Kinki region," "a route with a foray into the Shikoku region," or "a route that included a climb up Mt. Fuji." In addition, common people (both men and women) walked an average distance of about 34.1 km per day. Results revealed that common men walked an average distance of about 34.9 km while common women walked an average distance of about 28.6 km.

研究分野：スポーツ史学

キーワード：スポーツ史 娯楽史 旅 庶民 歩行 旅日記 なんば

1. 研究開始当初の背景

今日と比べて移動手段が未発達な近世社会にあって、人間の陸上交通は主に徒歩で行われた。そのため、遠方の土地まで旅をする時も、旅人は行程の大半を歩いて移動する必要に迫られていた。

それでは、長距離を徒歩で移動した旅人は、毎日どのくらいの距離を歩いていたのであろうか。スポーツ史の観点から近世旅行史をみると、旅人の歩行能力の問題が重要な課題として浮かび上がってくる。

従来、近世旅行史の通説では、旅人の歩行距離は1日あたり10里(約39km)程度として捉えられてきた。しかし、この歩行距離の値は史料的な裏付けに乏しく、再度検討する余地が認められる。

こうした観点から、史料に基づいて組み込まれた近世後期の伊勢参宮の旅に関する先行研究を整理しておきたい。江戸及び江戸近郊地の庶民男性の旅日記(14編)を分析した研究によると、彼らの江戸～伊勢間の往路ルートにおける1日あたりの歩行距離は平均で約34.4kmであったという。また、対象を関東地方一円にまで広げ、庶民男性の61編の旅日記を分析した試みでは、江戸～伊勢間の往路ルートの平均歩行距離は1日あたり約33.1kmであるとの数値が導き出されている。

これらの諸研究が関東地方を対象としてきたのは、実証の裏付けとなる旅日記の残存数が最も多いことと関係しているが、関東に次いで多くの旅日記が残されているのが東北地方である。従前、東北地方の庶民による旅の歩行距離にまつわる研究は管見では確認されていない。

2. 研究の目的

以上より本研究では、日本人の幅広い層にまで旅が一般化した近世後期の東北地方の庶民による伊勢参宮の旅に着目し、彼らの歩行距離の傾向を明らかにすることを目的とした。また、旅人の歩行距離を解明する前提として、彼らの在地出発から帰着までの足取り(=ルート)についても検討を加えるものであった。

これまでの近世旅行史研究では、男性の旅が主要なテーマであり、女性の旅が検討の俎上に乗せられることは珍しかったといっただよい。近世後期に至ると、庶民女性が寺社参詣等の旅に出る道が拓かれていったが、旅の世界に没入した彼女らが男性に勝るとも劣らない健脚の持ち主であったのか否かを、男女の比較において解明した試みは皆無であった。近世後期の東北地方の庶民女性による旅の記録(=旅日記)は、量的に男性のそれには及ばないものの、一定の分量を確認することができる。

そこで本研究では、歩行距離にまつわる男女差の問題にも目を向けて、男性・女性それ

ぞれの歩行距離の解明に取り組むものであった。

3. 研究の方法

本研究では、旅人が道中の模様を書き留めた「旅日記」を基本史料とした。

ここでいう旅日記とは、旅程順に日付、天候、宿泊地、旅籠名、旅籠代、昼食代、間食代、訪問地とその若干のコメント、賽銭、渡船代、その他購入した品々の代金などが列記されたものであり、いわば金銭出納帳ないしは日誌的な性格の史料である。全ての旅日記にこれらの項目が漏れなく記されているわけではないが、そのいずれかについて記録されているといっただよい。

本研究では、蒐集した旅日記の中から、通行した地名が詳述されている39編を抽出した。史料の地域別の内訳は、現在の福島県に該当する地域が11編、以下山形県が11編、宮城県が7編、岩手県が7編、秋田県が3編となる。性別で分けると、男性の旅日記が34編、女性の旅日記が5編である。

本研究における歩行距離の算出は次の方法によった。

まずは、本研究において取り上げた39編の旅日記の内容から、多くの旅人が実際に歩いた主要な街道筋における宿場の配置とその間隔(距離)を明らかにした。その上で、多くの旅日記には、毎日の道中において通過および宿泊した宿場の名称が記されているので、当日出発した宿場から宿泊した宿場までの距離を足していくことで、1日あたりの歩行距離を求めるといった方法を採用した。

4. 研究成果

本研究における成果は、以下の通り整理することができる。

(1) 東北地方の庶民が歩いた伊勢参宮ルートは、「近畿周回型」「四国延長型」「富士登山セット型」の3つに類型化された。庶民男女ともに、このいずれかのルートを選んで旅をする傾向にあった。

(2) 庶民の1日平均の歩行距離は、全体(男女)でみれば約34.1kmであった。これを男女で区別すると、男性が約34.9km、女性が約28.6kmとなり、そこには明確な男女差が確認された。

(3) 庶民男性の1日あたりの歩行距離の割合は、少ない日には一桁～10km台、多い日には60～70km台に達することもあったが、概ね30～40km台に集中していた。一方、庶民女性の日毎の歩行距離は大半が10～30km台に分布していて、60km以上の距離を歩いた形跡はみられなかった。この点からも、1日の歩行距離は男性の方が女性よりも相対的に

長かったといえよう。

(4) 1日あたりの最長歩行距離は男性が約75.0 km、女性が59.7 kmであった。しかし、男性にしても1日に60 km以上もの距離を歩くことは極めて稀なケースで、庶民男女にとっての無理のない1日の歩行距離の上限とは、50 km程度のところに求められた。

(5) 日数の経過と歩行距離との関係性を検討したところ、男女ともに時系列で歩行距離が明確に変動した傾向は見られなかった。東北地方の庶民男女は、在地を出立してから帰着するまでの間、概ね一定のペースを保って歩き続けたのである。

(6) 近世の日本列島の気温は現代よりも2~5程度低かったため、庶民が歩いた道中は現代人の感覚からすると比較的寒かったと推察された。また、天候の善し悪しが道中の歩行距離に大きな影響を及ぼすことはなかったが、雨天時には長距離を歩きにくく、晴天時は距離を延ばしやすかったことが示唆された。

(7) 旅人が道中で歩いたとされる「昼」の時間帯の長さは、年間のうち最長で夏至の15時間47分、最短で冬至の10時間57分であり、平均すると13時間21分が確保されていたが、この昼夜の長さが歩行距離を大きく左右したという傾向は見られなかった。

研究期間全体において、上記の諸点が明らかとなったが、今後は東北地方以外の庶民が旅の道中で歩いた距離の傾向を探ることを課題としたい。

<参考文献>

谷釜 尋徳、近世後期の庶民の旅にみる歩行の実際 江戸及び江戸近郊地の庶民による伊勢参宮の旅を中心として、スポーツ史研究、20号、2007、1-22

谷釜 尋徳、近世後期における関東地方の庶民による伊勢参宮の旅の歩行距離 旅日記(1768~1881年)の分析を通して、東洋大学スポーツ健康科学紀要、8号、2011、33-54

谷釜 尋徳、近世後期における庶民女性による旅の歩行距離について 紀行文及び旅日記を手掛かりとして、体育史研究、27号、2010、33-45

田中 智彦、道中日記にみる畿内・近国からの社寺参詣、交通史研究、49号、2002、19-20

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

谷釜 尋徳、近世後期の東北地方の庶民男女による伊勢参宮の旅のルートと歩行距離 旅日記を史料として、東洋法学(査読なし)、60巻1号、2016、印刷中

谷釜 尋徳、近世における東北地方の庶民による伊勢参宮の旅の歩行距離 旅日記(1691~1866年)の分析を通して、東洋大学スポーツ健康科学紀要(査読なし)12号、2015、23-48

谷釜 尋徳、近世後期における九州地方からの伊勢参宮 嘉永三(一八五〇)年『上京一切備忘志』の分析から、東洋法学(査読なし)、58巻3号、2015、181-219

〔学会発表〕(計2件)

谷釜 尋徳、近世後期における九州地方からの伊勢参宮 嘉永3(1850)年『上京一切備忘志』の分析から、スポーツ史学会第28回大会、2014年12月6日、富山大学五福キャンパス(富山県・富山市)

谷釜 尋徳、近世における東北地方の庶民による伊勢参宮の旅のルートと歩行距離 旅日記(1691~1866年)の分析を通して、スポーツ史学会第27回大会、2013年11月30日、東洋大学朝霞キャンパス(埼玉県・朝霞市)

〔図書〕(計2件)

谷釜 尋徳 他、スポーツビジネス概論2、叢文社、2016、7-12

谷釜 尋徳 他、図表で見るスポーツビジネス、叢文社、2014、19-29

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

谷釜 尋徳 (TANIGAMA Hironori)
東洋大学・法学部法律学科・准教授
研究者番号：4 0 5 2 7 9 3 3

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：